

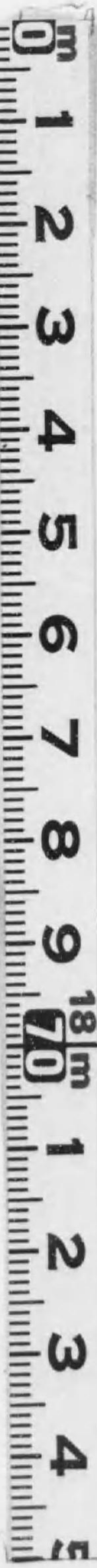
特118

12

芽のさく春

金光教救護団

国立国会図書館



始



芽のふく春

金光教救護團



標語

- 一、お互たがひに無事むじで仲なよく暮くらしませう
- 一、お互たがひに元氣げんきで忠實まじめに稼かせぎませう
- 一、お互たがひに芽めのふく春はるを待まちちませう
- 一、お互たがひに火ひの元用もとよう心じんいたしませう
- 一、お互たがひに凡すべてを清き潔れにいたしませう
- 一、朝あさ夕ゆふに神かみ様さまお祈いのりいたしませう

金光教救護團

金光教救護團

一、被災地の被災者を救護し、被災地の復興を支援する。
一、被災地の被災者を救護し、被災地の復興を支援する。
一、被災地の被災者を救護し、被災地の復興を支援する。
一、被災地の被災者を救護し、被災地の復興を支援する。
一、被災地の被災者を救護し、被災地の復興を支援する。

芽のふく春

金光教救護團

今回の震災ならびに火災は、かつて東西の歴史にもた
めしのなかつた未曾有の一大惨事でありまして、上聖
上陛下にをかせられても、ふかく御軫念あそばされ、曩
に壹千萬圓の御内帑を發して、罹災民を御救恤くだされ
つゝいて九月十二日には優握なる詔書を賜りました。更
に、皇后陛下、攝政宮殿下には、罹災地を御巡視下され
親しく病院に傷病者を、御慰問賜はりし事など、いまさ

ら申すも畏れおほいこととあります。わが國上下、また
 こぞつて日夜救護のことに力をいたしてをるのは、いふ
 までもなく、盟友各國も、あついで同情を遙かによせつゝ
 あるさまは、眞に感謝のほかはありません。

みなさまは、はからずも、この惨害にかゝられて、家
 をやき資財をうしない、更に大切な御家族をなくしたお
 方も、すくなくないことゝ存じます。いまさら何とも申
 しあげやうのない次第でありまして、さだめし淋しく御
 不自由のことゝ、ひたすら御同情にたへませぬ。わけて
 寒さにむかつてまゐりました昨今、如何おくらしなされ

てをいでますか、つゝしんでおみまひ申しあげます。

有爲轉變は、人生のつねとは申しながら、今回のこと
 は、あまりに悲惨をきはめました。したがつて、おほく
 の罹災者がたの中には、或は天地をのろひ、或は人生を
 はかなみ、或はゆくさきに光明をうしなつて、すてばち
 な考へになつたり、何事も手につかぬといふやうな、お
 方もないとはかぎりませぬ。まことに無理からぬことで
 はありますが、私どもの、いかなる場合にも、失うてな
 らぬものは、目のまへに現れた出来事を、すこしでもよ
 きやうに考へて、その境遇にしたがひつゝ、しかも、そ

れを土臺として、一層意義ある生活にすゝむといふことでありまして、いはゆる禍を轉じて福にするといふことも、悲をうつして喜にする、といふことも、畢竟この謂ひにすぎませぬ。いきいきとした勇氣も、あかるい希望も、みな、この活機にきざすのであります。

今回の災害のために、世のなにもものにも代へがたい貴重な、いのちをうしたうた人々は、幾萬といふ數をしりませぬ。そのかたの悲痛な最後のさまを、おもうては、うたゝ、斷腸のおもひを禁ずることができませぬ。この悲痛な運命をおもふにつけても、お互に、かうして、いき

のこつてゐるといふことは、いはゆる不幸中の幸として、よるこばねばならぬことであり、また、いきのこつたかひには、ひとかどの働きをして、悲痛な死をとげた人々の幽魂を、なぐさめるやうにしたい、といふこゝろもちが、ひしひしと迫つてくるではありませぬか。それにもかゝはらず、多くのなかには、これほどに、うきめを見るのならば、いつそ、あの時に自分も死んでしまへば、よかつたなど嘆くひともあるやうであります。この際、そんなよわねをふいて、はなりませぬ。ことわざにも「命あつてのものだね」と申します。いかなる名譽も、いか

なる希望も、いかなる歡喜も、みな、生命あるによつて、
 はじめて得られるのではありませんか。今回の、にがい
 經驗を、神のあたへ給うた一大試鍊と感謝すること、
 この試鍊のなかに、ふたゝび生れ更つてきたことを、眞
 によるこぶこゝろとは、お互に、これから新しい道をす
 るむうへの、最も貴いもとで、あると信じます。
 私どもは、今回の變災に處するうへの標語として、「お
 互に、芽のふく春を待ちませう」と申しあつてをります。
 これは、私ども、いかなる場合にも、つねに光明にみち
 た生活をいとなみたい、いかなる艱苦にも、うち克ちた

い、いかなる場合にも、まじめに努力せねばならぬ、と
 いふことを祈るがゆゑであります。さむい冬の間には、
 さながら枯れはてたごとくに見える草木も、あたゝかい
 春をむかへると、いきいきした芽をふき、うつくしい花
 をひらくのであります。なにゆゑに枯れたとみえる草
 木に、かくのごとく芽をふき花をひらくのであるか。そ
 れは天地に生氣が、みなぎつてをるからであります。草
 木に一道の生氣がみちてをるからであります。嚴冬、枯
 れたと見えてゐた彼等は、決して死んでゐたのではない、
 その間にも生氣は脈々としてかよひ、つよい力を根にや

しなひつゝ、やがて芽をふき花をひらくべき用意におこ
たりなかつたのであります。

私どもの現在も、また、この冬の枯木にひとしい場合
ではありますまいか。衣食住にも事をかきがちであつて、
現在、他の救助をあふがねばならぬ立場にあるのであり
ます。これは、決して平生遊惰放恣の結果ではなく、萬
人の、ひとしく免れえぬ天災によつたのであります。か
ゝる場合に助けあふことは、貴い人の道であつて、助け
られる私ども、かならずしも、これを不名譽とはおも
うてをりませぬ。ともに、これ、變に處して、しかも國

家人類を、永遠にみちびくための道であると信じます。
但この間、守るべき大切なことは、一日もはやく、芽を
ふき花をひらくべき、春をまつ希望と用意とを、うし
なはぬといふの一事であります。もしいたづらに、他の
救助にあまんにして、何等このころがけがない、とした
ならば、それこそ人としての、かぎりなき不名譽であつ
て、また、人道を賊するものといふべきであります。お
互にあひ警めて、わが國民として、さる不名譽にならぬ
やう、ふかく覺悟すべきではありませんか。この、ふか
い覺悟のもとに、現在の困苦缺乏に、たへしのびつゝ、

内に確乎とした元氣をやしなうて、各自の天分にしたがひ、能力につれて、他日の用意におこたることがなかつたならば、やがて、あたゝかい春の光は熙々として、私どもの頭上に、かゞやくことでありませう。

他日に處すべき用意のうへに、私どもの、かならずわすれてならぬ一事は、古人も申しましたごとく『人はパンのみにて生きるものにあらず』といふことであります。眞に偉大な事業は、つねに眞正の信仰のうへに、うちたてられました。決しておかねさへあれば、知識さへあればよい、といふべきものでなく、いはんや一時の利慾や

不正不義によつて成しうべきではありませぬ。震災前のわが國情は、この貴い信仰を忘れた幾多の、よくない傾向にみだされて、ほとんど、ゆきつまりの状態にあつたと申してもよろしいとおもひます。わがこゝろに、おもひあまることのある場合にも、惑はしい事情にせまつた場合にも、まづ心をおちつけて、私どもの、つねに信ずる神さまなり、佛さまなりに念じて、そのお力におすがり申し、その御教をよりどころとして、うるたへず、まよはず、確乎した土臺のうへに、一步一步あたらしい道を拓くべきであります。新帝都の復興は、やがて精神的文化の建設といふことに、ならねばならぬと信じます。

いまさら申しても、致しかたのないことでもあります。が、
 數百年かゝつて、きづきあげられた東洋文化の中心が、
 一朝にして、あさましくも潰滅に歸したことは、惜んで
 もあまりある次第であります。それにつけても、いかに
 自然の偉力の、つよいものであるか、いかに人の力のよ
 わいものであるか、といふことを、痛感せずにはをれま
 せぬでした。しかしながら、この人の力も、自然に順應して
 ゆくまゝに、しだいに、鍛へられ育てられて、そこに貴
 い人生を建設し、國家人類永遠の繁榮をいたすことが、で
 きるのである。これが、やがてお互一生の任務であります。
 この任務をはたすうへに、かならずや缺くことのでき

ぬものは、私どもの間の、親愛互助の道であるといふこ
 とも、また、今回のできごとによつて、痛感したところ
 であります。しかしながら、この互に愛しあひ、助けあ
 ふといふことは、單に、他をまち他をあてにしてのみ、
 生きやうとするものゝ間に、實現されるものではなくし
 て、各自、正義を以て獨立奮闘する人々の間にのみ、完
 全におこなはれ得るものであります。

おもへば今回の不幸は、私どもにとつて、實に未曾有
 の大試鍊とも、いふべきことであつたと共に、上下内外
 の、あたゝかい同情をうけたことも、また實に未曾有と
 いふべきであります。眞に感謝のなみだを禁ずること

ができません。私どもは、なにものを以てしても、よく、これにむくいることはできません。たゞ、このあたゝかい同情に、はぐまされた勇氣をもつて、堅忍に誠實に、各自の新しい道に立つて、一新文化の府をこゝに建設して、そして日本國民としての名譽を恢弘することが、私どもとしての、とるべき道であります。しかもまた、斯くすることが、今回の不幸を轉じて幸福とする所以であり、さらにはまた、畏くも 聖上の宸襟をやすめまつる所以であります。

追々さむさむさに向ふをりから、わるい病もはやるといふとであります。切に、みなさまの御健康をお祈いたします。

大正十二年十一月二日印刷
大正十二年十一月廿一日發行

〔非賣品〕

著作兼發行者 金光教救護團

代表者 畑 徳三郎

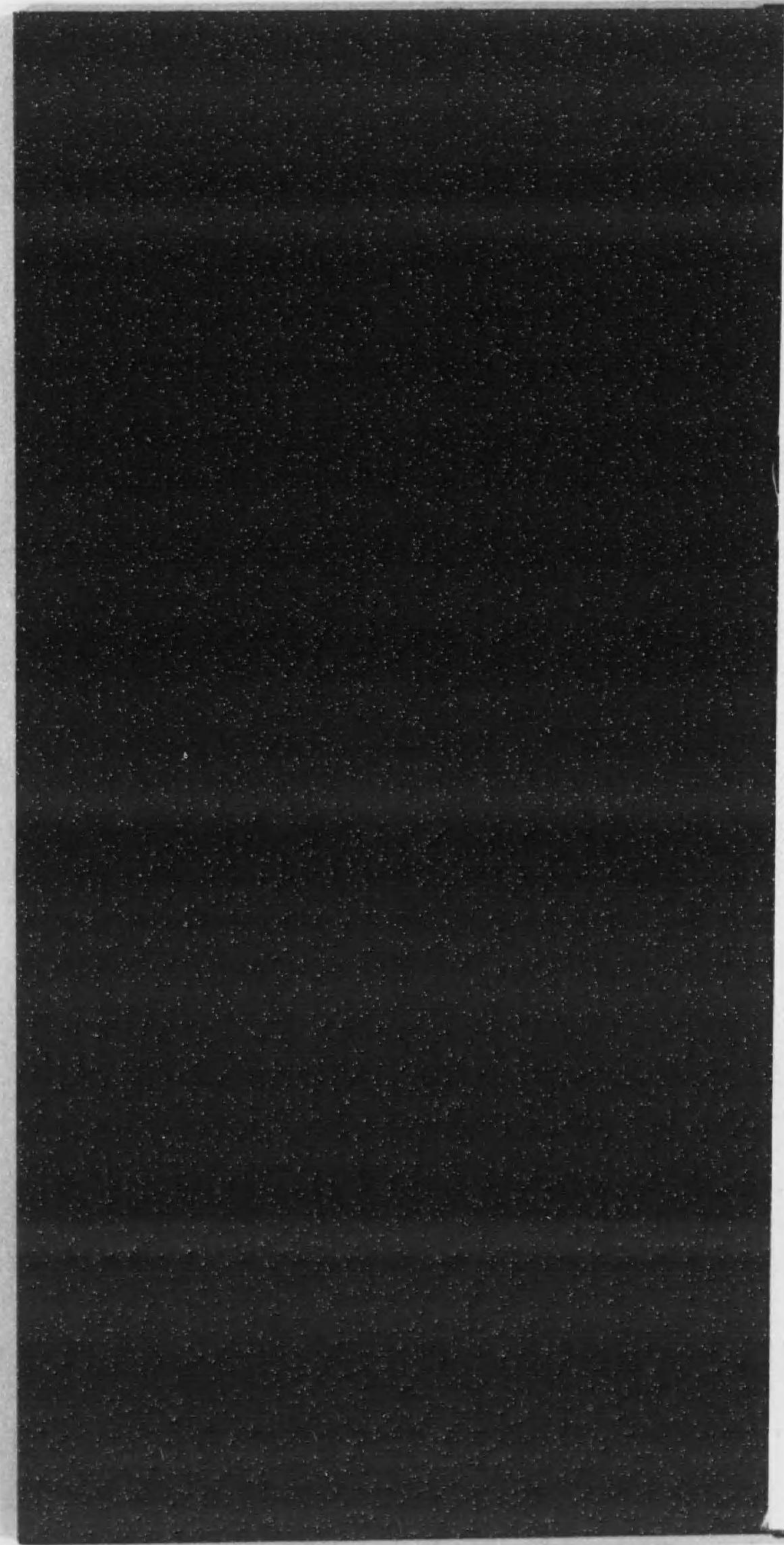
印刷者 東京市外中濫谷八三〇市 田賢治

印刷所 東京市牛込區早稲田鶴巻町三〇八 敬文社印刷部

東京市神田區和泉町一番地

發行所

金光教救護團



終